

令和7年度【2025年度】とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	荒川区立原保育園
----	----------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

触れて遊ぼう！ ～砂と土～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・園庭の砂場で遊んだり、春過ぎからは泥んこ遊びも楽しみ遊びを通して砂や土、水の変化や不思議さに気づき始めている。
- ・園庭が花壇に囲まれているため、虫探しや植物の観察など、土に触れる経験ができる。その環境を生かしてさらに子どもたちの興味関心を深めていけるような取り組みをしていく。

2. 活動スケジュール

春～夏 水や砂を使った泥んこ遊び
夏野菜の土づくり
秋～ 水、砂、土の植物の栽培（植物の生長の違い）
コンポスト作り
泥だんご作り～砂と土の違い～
冬～ 霜柱、氷など土や水の変化に触れる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)




クイックシェード、スクリーン、ウォータータンク、パール、三脚ループ、水中観察スコープ、たらい、ブルーシート、じょうろ、すり鉢、ふるい、移植ごて、図鑑（植物、土づくり）、水槽




4. 活動の内容





春～夏 砂場の砂を使い泥んこ遊びをして楽しむ。
夏野菜の土づくり、苗植えをする。
秋～ 水、砂、土に植物を植え生長の違いを観察してみる。
野菜の皮や落ち葉を用いて、栄養価のある土を作ってみる。（コンポストを使用）
砂と土を使って泥だんごを作り、性質の違いを知る。
冬～ たらいに泥水を用意し、泥水が気温で変化していく様子を観察したり、触れたりしてみる。



クラス	0歳児クラス	
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・砂や土に触れて遊ぶ 	R7,11,4
子どもの姿	<p>・はじめて乳児園庭で遊ぶ。ボール、タイヤ、砂場がある環境で自由に遊ぶ。その中で、地面の土いじり、砂場遊びなど砂・土に触れるそれぞれの姿が見られた。</p> <p>〈M児〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園庭に出てすぐ、足元の土にためらいなく両手をつく。土をつかんで、ぱっと土を落とす遊びを5回ほど繰り返した。その後、土の中を探ると、小石を見つけ、取り出して見つめる。 ・土の中に両手を埋めると、四つん這いの状態で前へ進む。土の中を進む自分の手を見つめる。 <p>〈R児〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは砂場に興味を示さなかった本児。しばらくすると自分から砂場に近づき、外から手を伸ばして砂を触り、苦い表情を見せる。「中に入って一緒に遊ぼう？」という保育者の声掛けで砂場の中に入る。 <p>その後はシャベルを使い、お皿に砂をうつして遊ぶ。入室を嫌がるほど最後まで砂遊びに集中していた。</p>	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが4,5名入る大きさの砂場と、砂場玩具(シャベル、片手で持てるコップ、型抜きカップ、平皿等)を用意し、環境を整えた。 ・砂場を開けると、すぐに興味を示す/他の遊びが落ち着いて砂遊びを始めるなど、それぞれ反応があった。時折シャベルですくった砂を口に入れる子はいたが、砂遊びを嫌がる姿は見られなかった。口に入れないよう、十分気を付けていく。 ・砂場の外には土があり、砂場玩具を使い土遊びをする姿もあった。砂・土両方に触れる中で、様々な感触を経験し楽しんでいきたい。 	








クラス	1歳児クラス	
活動内容	・砂や土に触れてみる	R7,11,4
子どもの姿	<p><I 児></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて園庭に出ると幼児組の土や泥遊びに興味をもち、自ら土の方へ行き触れてみるが、土が手に付くことが気になり、水を見つけると手を洗いに行く。そこから、水遊びが始まる。 <p>初めのうちは土や泥が手に付くたびに手を洗っていたが、砂場に移動した時に保育者が型抜きで「ドーナツできた」と見せると、「どーナつ!!」と喜び、砂に興味をもつ。白い砂をかけてトッピングのようにしてみたり、自分でも型抜きをしてみようとしたりする姿が見られ、砂や土が手に付いても気にしなくなる様子が見られた。</p> <p><H 児></p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂場の中に座り込み、シャベルで砂をすくって遊んでいたH 児。すくっては戻し、すくっては戻しを繰り返していたが、保育者とI 児のやりとりを見て、型抜きを使うと形ができることに気が付き、自分でもやってみようとする。保育者が「ギュッ ギュッ」と言いながら型に砂を詰める様子見て、「ぎゅっ」と言いながら砂を入れひっくり返すが砂がサラサラで形にならず、不思議そうな表情をしていた。 	  
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての園庭では、砂場への興味の差は大きくあり、砂場の中に入らずに外側に座り、砂場に手を伸ばす子も多く、経験の差も大きいと感じた。保育者や友だちが遊ぶ様子を見て遊び方を知る姿もあるので、繰り返し遊んでいく中で楽しめるようにしていきたい。 ・水は夏に水遊びを経験していることもあり、抵抗なく遊ぶ姿もあるので、暖かくなってきたら、砂、土、水を使用し感触遊びを十分に楽しめる環境を作っていければと思う。 ・保育者が型抜きができることを実際に見せたことで、砂に興味をもった様子があり、自分でもやってみようという気持ちにつながったと思われる。自分では形ができなかった経験から、どうすれば作れるのか?という探究につながるように見守っていきたい。 	

クラス	2歳児クラス	
活動内容	土と砂に触れて遊ぶ R7,10,29	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・4歳児が作った泥団子を見て、きょうだい児であるA児とB児がたらいの中にある土に興味をもったため、誘いかけると、両手をたらいの中に入れて泥を触り始めた。2歳児で遊んでいると自然と集まって「なにしているの?」と興味をもった子がたらいを囲んでいた。 ・土をこねたり触れたりして感触を楽しんでいると、C児が「かきごおりみたい」と言った。保育者が「なんで?」と聞くと「つめたいから!」と言っていた。手が真っ黒になるほど集中しながら土に触る子もいた。 ・泥団子作りをしようといくつこねてみるが、なかなか形作るのが難しい様子の2歳児。それを見た4歳児が、泥団子の作り方について教えてくれたり、手助けしてくれたりしたことによってどんどん泥団子の形になっていき、できた泥団子を乾燥させる。 	  
考察	<p>4歳児の姿を見て、興味を持つ子がいたので自然と土遊びに参加することができた。土に触れながら今まで経験したことへと当てはめていくことでより土を身近に感じることでできていたと考える。子どもならではの気付き・発見を受け止めていくことでより遊びに集中することができていた。泥団子を作るときには4歳児に話を聞きながら作り方を理解していき、どのように丸めていくのか自分なりに作ることができていた。</p>	

クラス	3 歳児クラス	
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・土と砂に触れて遊ぶ 	<p>R7,10,22 R7,12,4</p>
子どもの姿	<p>・はじめて土遊びをしたときに土を触って遊んでいると、「てがまっくろ！」というY児。「すなはくろくならないよね」と話していた。また砂と土を触って、“砂の方が冷たい”と話す姿もあった。</p> <p>・H 児と K 児は土に水を少しずつ加えていきながら「どろどろになった」「どろどろがとろとろになってきた」と、水を加えることによって感触が変わっていく様子をシャベルで混ぜたり、手で触りながら楽しんでいった。その後、S 児がバケツに砂を入れその中に水を入れて混ぜている様子を見て、H 児は「すなはどろどろにならないでジュースになるんだね」と水を混ぜたときの砂と土の違いを感じ話す姿があった。</p> <p>・手の平で土を丸めながら少しずつ水を加えていき泥だんごづくりをする M 児。少しずつ調整しながら試行錯誤していた。砂よりも土のほうが丸めやすいと感じたようで「こっち(土)のほうがきれいにできる」と言っていた。</p>	   
考察	<p>・水を入れる用具やバケツ、容器など子どもが使いやすいものを用意し、子どもが主体的に遊べる環境を整えたことで、水を使いながら感触遊びを楽しむ姿が多くみられた。遊びの中で、砂は水と混ざり合わないが、土は混ざり合うといった違いに気づく子もいた。遊びを通してそれぞれの違いを楽しみながら発見し、さらに探求心を持って、遊びの発展につながっていると感じた。</p> <p>・水を使って楽しむ姿が見られたため、温かくなったら裸足になってどろんこ遊びをし、手だけでなく全身を使って楽しめるようにしたいと思う。</p>	

クラス	4歳児クラス
活動内容	土に触れて泥だんご作り R7,10,29
子どもの姿	<p>・夏ごろから始めた砂での泥だんごづくり。砂作っても次の日にはヒビが入り壊れてしまっていたので、土を出して泥団子づくりを行う。初めて土に触れた子どもたち。水を入れてドロドロになった泥を手にとると、いつも違う感触にワクワクしている様子であった。保育者が泥だんご作りを始めると「丸くならない」「難しい」と言いながら形を作っていた。形ができると、乾いた土をかけて自分の手で磨き、少しずつツヤツヤになる様子が嬉しかったようで1時間以上泥団子づくりを楽しむ姿があった。そこへ散歩から帰ってきた保育者が「できた?」「光る泥だんごできた?」と声をかけてくれると、「え?ピカピカになるの?」と驚いた様子の子もたちであった。土の中に入れてもピカピカにならないことを知った子どもたちは、友だちや保育者と一緒におしゃべりをしながら光る泥だんご作りを楽しんでいた。</p> <p>A 児「いいな。どうやったらピカピカになるのかな?」</p> <p>K 児「この中に(乾いた土)入れといたらピカピカになるかな?」と土の中に入れてみる。1回出して見るが「ピカピカになってない」と笑って見ている。</p> <p>・土の中に入れてもピカピカにならないことを知った子どもたちは、友だちや保育者と一緒におしゃべりをしながら光る泥だんご作りを楽しんでいた。その後、子どもたちは、すくわくの絵本コーナーから泥だんごの絵本を持ってきて、作り方を調べる姿があった。</p>  
考察	<p>・砂では次の日には崩れてしまうという経験のもと、保育者が土を出し土での泥だんご作りを提案した。泥に抵抗ある子もいると予想されたが、いざ保育者や友だちと一緒に作り始めると自然と会話が始まり夢中になる姿が見られた。また、保育者の泥だんごが少しずつツヤツヤになっていくのを間近で見っていたので、憧れや願いをもつことができたのだと感じることができた。そして、こうしていればこうなるという見通しをもてたことで遊びが長時間継続できたのだと思う。</p> <p>・光る泥だんごがどうしたらできるのかを保育者に聞くだけでなく、自分たちで調べる姿があり、子どもたちの意欲を感じることができた。</p>

クラス	4歳児クラス
活動内容	泥だんごづくり「砂と土、何が違うの？」 R7・12・8
子どもの姿	<p>・泥だんごづくりを継続的に楽しんでいる子どもたちは、ドロドロの泥のタライの中に手を入れる。「つめたいね」「ひんやりする」泥の感触を思う存分楽しんでいる表情が伺える。</p> <p>保育者「冷たいね。これ何度くらいだろう？」</p> <p>A児「0度」</p> <p>Y児「つめたい度」</p> <p>自分なりの表現をした子どもの姿を見て、とてもほっこりした場面だった。</p> <p>・泥だんごを保育者や友だちと会話して作っている中で「なんで砂の泥だんごは崩れるのに土の泥だんごは崩れにくいのか」という話になる。子どもたちは考えると</p> <p>Y児「砂には石が入ってるよ」それを聞いていた</p> <p>O児「土には石が入ってない」</p> <p>T児「石が入ってないから土の泥だんごのほうが強いんじゃない？」</p> <p>砂と土に触れる中で、砂と土の違いに少しずつ気づいてきた子どもたちであった。</p>   
考察	<p>・実際に自分の手で土に触れることで、ドロドロの土は冷たいということを感じることができた一場面となった。まだ何度か冷たい温度なのか分からない子もいるため、こういった子どもならではの発想がとても新鮮であった。自分の手で触れ感じた温度だったのだろうと感ずることができた。</p> <p>・子どもたちと会話しながら泥遊びをする中で、今実際に手にしているから分かることや言えることがあるのでと感ずることができた。また、子どもたちに投げかけることで、自然と会話が生まれ、自分の思ったことを口にできる環境が、子どもたちの素の部分を引き出せるのではないかと感ずることができた。</p>

クラス	5歳児クラス	
活動内容	土と砂の感触の違いなどに気付く R7,11,14	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・感触遊びが好きな Y 児。保育者が土を触っている様子を見ていたので誘うと興味をもって遊び始める。最初4歳児クラスの K 児が泥だんごを作っている様子を見て、真似して作ったが「なんかまとまらない」と話す。K 児が遊んでいる姿を観察し、湿った土を握っていることに気づく。 ・横のたらいに水を入れ泥を作る。水が簡単に混ざらず、混ぜるために土を動かすと川のような水の流れる様子が見られた。「ここに海を作りたい」、川の流れをせき止める土をみて「ビーバーのおうちみたいだね」と色々な地形を作り楽しんでいた。 ・川などを作っていくうちに水かさが増し、タプタプしてきた泥を見て、「気持ちよさそう」と両手を入れて楽しんでいた。山をもう一度作りたくなった Y 児は試行錯誤しながら作っていたが、難しくその様子を見た3歳児 H 児や5歳児 K 児などがきて「手伝ってあげる」と一緒に山を作って楽しんでいた。 ・様々な目の細かさのふるいを利用して、サラサラの砂をたくさん集める様子 	    
考察	<p>今までの砂場で泥水遊びでは、自分たちで「ここは川でここは山」など想像し作ってから、水を流す姿が多かった。今回は土の上に水を溜め、それを混ぜる中で自然と水の流れを観察する機会となった。高いところから低いところへ移動する水の様子をみながら地形を作り替え思い通りに水を動かしたり、水の動きによって地形の形が変化していくことを知ったりする経験になったと考える。</p>	



「とうきょう すくわく プログラム」は、すべての乳幼児の「伸びる・育つ(すくすく)」と、「好奇心・探求心(わくわく)」を応援する幼保共通のプログラムであり、乳幼児の豊かな心の育ちをサポートするため主体的・協働的な探究活動の実践を促進するものです。

(とうきょう すくわくプログラム推進事業より)



今年度、原保育園では「自然」をテーマに探究活動を行っています。子どもたちが好奇心や興味を持ってわくわくしながら遊び、取り組んだことを、随時お知らせしていきたいと思ひます。





おぐのはらこうえんで おちばを
ひろっていると...「あつた!!」のこえ。
うさぎぐみが みつけたのは
なにかの「み」!! みあげてみると...
プラタナス(すずかけのき)の
「み」でした。



← わってみると
こんなかんじ!



あきになると、かた
なり、はるには、
わたげになて
ちっていくようです!

これ はなに ?
くすのきやまこうえんで見つけた実。
「あぼがど! ようばし! ばし!」がば?
すかんぞしりべにら
かりん がえしわてい..



きってみよ!!



→ 「はかみはくろくちて
いたけど、かりんに
してる!!

あつたー! はかみはくろくちて
いたけど、かりんに
してる!!

